



## イギリス

### 加工食品の推奨される1食分は適量か？

- Which?ウェブサイト <https://www.which.co.uk/news/article/portion-problems-why-size-matters-a2NAX7u2G7je>
- FSA(イギリス食品基準局)ウェブサイト <https://www.food.gov.uk/safety-hygiene/check-the-label>

イギリスでは、包装された加工食品には成分表示の義務があることに加え、脂肪、飽和脂肪、糖類、食塩の1食当たりの量が、1日の上限に対して高割合は赤、中程度は黄、少量は緑として交通信号の色で表示されることが多い。しかし、1食の量に一律の規定はなく、Which?は効果があるか疑問だという。

Which?が2023年5月に調べたところ、約8割の人がスーパーで売られているサンドイッチに飲み物とスナックの付いたセットを1食分だと答えたが、実際の分量は2食分だった。ばら売りやマルチパックなどの売り方次第で、同じチョコバーの1食分で20～33.5gもの差があり、1袋300gのパスタもメーカーによって2人用と3人用の表記がある。

一方、外食で目にする食事のサイズが消費者の1食分量の感覚に影響しているとWhich?は指摘。世界

的チェーン店のピザは、スーパーでは2食分で250gと458gの2サイズで販売されているが、同じピザをチェーン店のレストランで注文すると1人前343gである。Which?が参加者を募り、自宅で普段1回に飲むワインやジュースの量を報告してもらったところ、ワインは全員が表示分量の125mlを超えた。オレンジジュースは表示の150mlの3倍近い400mlを注いだ人もいたが、成人の1日摂取量の上限を超える砂糖35gが含まれる。

Which?は「赤・黄・緑」の表示の色を一瞥<sup>いちべつ</sup>しただけで健康的な食品だと即断するケースが多いと予想し、誤認しやすい表示の改善をスーパーやメーカーに求めている。消費者に対しては、分量表示を確実に読み、実際に量って実感することや、食器を小ぶりなものに変えることなどを助言している。



## オーストラリア

### 異常気象と住宅保険

- CHOICE(オーストラリア消費者委員会)ウェブサイト <https://www.choice.com.au/insurancereport>
- ASIC(オーストラリア証券投資委員会)ウェブサイト <https://asic.gov.au/about-asic/news-centre/find-a-media-release/2023-releases/23-221mr-asic-review-finds-insurers-can-and-should-improve-claims-handling#page=3&type=media%20releases>

大規模自然災害の際に、住居や家財の損害を補償し生活再建の支えとなるのが住宅保険だ。このほどCHOICE、気候や金融に関連する消費者団体などが共同で住宅保険契約者に対する全国調査を実施した。

それによると、過去5年間に回答者の4割が洪水・山火事などの大規模自然災害に被災、また、9割近くが「保険料が値上がりした」と回答。そのため多くの契約者が補償範囲を減らしたり、保険の更新を諦めたりしたという。また、複雑な契約条件を正確に把握しておらず、被災後に請求しても期待どおりの補償がない、被災建物の評価額は下がり売却もできず来年の保険料を払えないなど、金銭的・精神的にダメージを受けているという。さらに、災害が発生しやすい地域は低所得層の住人が多く、十分な補償内容の保険に加入できない、災害時の危険情報が断

片的で不正確といった問題点も明らかになった。

政府の企業規制当局であるASICも、保険大手6社の保険金請求処理についての調査・評価を公表した。対象は東部大洪水の時期を含む2022年1～3月の保険金請求及び6カ月間の請求処理の追跡調査で、処理件数は22万件近くに上り、うち43%は大規模自然災害の被災者からの請求という。損害査定や保険金額確定等の事務が公正に遅滞なく実施されたか調査した結果、ASICは保険業界に対し、有能な人員を十分に配置して丁寧に対応するよう改善を求めた。

CHOICE等は、比較検討しやすく適切な価格で安心できる保険商品の提供を保険業界に求めている。また政府には、正確で適時の災害リスク情報提供や、危険地域からの住民移転、低所得者対象の住宅保険補助金などの施策も提言している。